AMDA
多国籍医師団

難民の医療活動視察

第一陣あすソマリアへ

災害や戦争などによる難民への緊急医療援助をねらいに誕生したアジア医師連絡協議会（AMDA）＝本部岡山市楢津、菅波内科医院内＝の「多国籍医師団」第一陣が十六日、岡山からソマリアへ向けて出発する。今回はすでにAMDAの手で進められている難民キャンプでの医療活動の視察を目的としており、岡山を起点にアジア十四カ国に広がる医師らのネットワークがいよいよ始動する。

多国籍医師団は、カンボジアやネパールなどアジア各地で医療面からのボランティア活動を続けるAMDAの緊急救援プロジェクトの一つ。五月二十二日、日本を中心にパキスタン、インド、タイなど十四カ国の医師、看護婦ら約五百人で結成した。

今回、視察に行くのはAMDA事務局次長の津曲兼司医師(三六)ほかコーディネーターら計四人。十七日に成田を出発。途中で多国籍医師団メンバーのネパール人医師らと合流、二十一日にジブチに入る。二十九日まで現地に滞在し難民キャンプでの医療活動に加わるほか各地を視察、来月一日に帰国予定。

ジブチではAMDAが一月から、国内のNGO（非政府組織）三団体とともにソマリアから流入する難民への救援活動をスタート。首都の病院や国境沿いのキャンプ四カ所でマラリアや肺炎の治療に当たっている。このほか国連難民高等弁務官（UNHCR）の要請でソマリア領内の病院再建事業などにも取り組んでいる。

これまでソマリア難民への医療援助活動には日本はじめフィリピン、バングラデシュ、ネパールなどAMDA各支部から延べ約三十人の医師、看護婦、コーディネーターが派遣されている。

AMDAの菅波茂代表は「今回の視察でプロジェクトの進ちょくを見極め、現地のニーズにこたえる医療支援を展開したい」と話している。